

イスラム教の国

スピーカーから響き渡る男性の大きな声で目が覚めた。コーランを朗読する声が町中に流れている。あー、ここはイスラム教の国なのだと改めて実感した。関西空港を昼に立ち夕方にはマレーシア・クアラルンプールに着いた。日本の秋から数時間で真夏の国へ季節は逆戻り。友人宅の高層マンションに泊めて頂いた。暑がりの私ではあるが窓を開け扇風機だけで心地よい眠りについた。お祈りは1日5回（夜明け前、正午、午後3時頃、日没時、午後8時前後）行われる。

人口約3000万人のマレーシアは多民族国家であり、大きく分けてマレー系67%、中国系25%、インド系7%。宗教はマレーシアの人口の60%がイスラム教であり国教となっている。しかし仏教、キリスト教、ヒンズー教等の信仰の自由も保障されている。



首都クアラルンプールを車で回ったが、至る所で大きくて立派な建築物・モスク（イスラム教の礼拝室）が目につく。イスラム教は7世紀に今のサウジアラビアで預言者マホメットが創始したアラーを信仰する一神教で、聖典コーランをよりどころとしている。このコーランには「してはいけないこと」が書かれている。例えば「盗み、強姦、殺人、偶像崇拜、酒を飲むこと、不倫」など。反対に「しなくてははいけないこと」は1日5回の礼拝、1年に一度の断食、一生に一度のメッカ巡礼などがある。

イスラム教自体は日本で極めてなじみの薄い宗教であるが、私が住む国際都市・神戸には1935（昭和10）年に日本で最初にモスクが建てられている。子供の頃からよく見かけはしたが、マレーシアで見るモスクはさすがに大きさから姿形まで本場であると思えた。撮影2014年秋

